

令和 4 年度 学校評価シート（案）

学校名： 和歌山県立和歌山工業高等学校 校長名： 松本 泰幸

現状・進捗度	A	十分に達成している。	(80%以上)
	B	概ね達成している。	(60%以上)
	C	あまり十分でない。	(40%以上)
	D	不十分である。	(40%未満)

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）	学校評価の公表方法
・ 質実剛健の校訓に基づき、専門的な技能や技術を習得させ、地域貢献をになう人材の育成を目指す。 ・ 社会人としてのマナーや社会に貢献できる人材にふさわしい態度や資質が身についている。 ・ 主体性や協調性、創造性を身につけ、課題や困難の克服に最後まで粘り強く取り組む態度が身についている。 ・ 危険予測ができるようになるとともに、安全に対する重要性を認識し行動する態度が身についている。 ・ 専門分野の知識と技能を習得し、「ものづくり」に意欲的に取り組むことができる。	自己評価及び学校関係者評価の結果を、ホームページに掲載する。

自己評価（分析、計画、取組、評価）						
番号	計画・取組			評価（3月8日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況
1	生徒に向上心を持たせ、主体的に活動させる場面のある授業づくりを推進し、確かな学力の定着を図るとともに、キャリア教育の一層の充実を図る。	A	アクティブ・ラーニングの視点を重視し、一人一台 PC 等の活用も含め、生徒が主体的に学ぶことができる授業の研究を行う。	研究授業を 30 回程度	B	研究授業は 6 教科でそれぞれ 1 回行った。また各科各教科で新学習指導要領に基づいて 1 年生の授業づくりを行った。
			生徒が発表や議論を行う授業を実施する。	課題研究等の発表会を 10 回程度	A	課題研究の発表会は各科単位で行い、計 10 回実施。
			生徒の進路選択につながる進路説明会を実施する。	進路説明会を 10 回程度	A	就職・進学に関する説明会や見学は、科別・学年別で計 32 回実施。
2	工業高校としての専門性を生かした資格取得、技能・技術の習得を積極的に推進することで、ものづくりの楽しさを体感し、自ら学び続ける力を育成する。	B	和エスタンダードを活用し、資格試験等の受験者数・合格者数・合格率を向上させる。	合格者数延べ 1000 人、合格率 60%程度	B	資格試験の合格者・合格率は 616 名合格、53.8%の合格率。
			ジュニアマイスターの受賞人数を増加させる。	ジュニアマイスターの受賞人数 40 名程度	A	ジュニアマイスター受賞者数は 40 名。(昨年度は 27 名)
			小学校等への出前授業など、他校種との連携を積極的に行う。	出前授業等の取組 10 回程度	A	地域貢献活動をクラブ活動等で計 28 回実施。
3	部活動や自主活動の一層の振興を図ることで、希望する進路の実現のため職業人として必要な豊かな人間性を育む。	B	通学マナー、身だしなみ、あいさつ等、規範意識を向上させる指導を行う。	身だしなみ指導を学期 1 回 街頭指導を月 2 回程度	A	街頭指導は月 2 回、身だしなみ指導は各学年 3 回、ネットパトロールの指導数は 58 件。
			大会やコンクール等における成果を充実させるため、生徒に研修や強化練習会等へ積極的に参加させる。	県代表に相当する人数 50 名程度	A	近畿・全国大会、県代表のコンクール等、13 クラブのべ 231 名が出場。
			小学生を対象としたものづくり教室を本校で開催し、生徒と連携してものづくりの楽しさを伝える。	各科において 10 名程度の小学生の体験	B	コロナ禍のため規模を縮小し、3 科で 22 名の小学生体験を実施。
4	地域連携や地域貢献を軸にした、地域とともにある学校づくりを推進する中で、主体性や協調性、創造性を身につけ、課題や困難の克服に最後まで粘り強く取り組むことのできるものづくり人材を育む。	B	地域とともにある学校づくりのため、県内企業や技能士と連携し、ものづくりに対する高い技術と職業人としての心構えを身につけさせる。	技術指導件数を 50 回程度	A	実習等における外部講師の指導、また技能検定の補習における技能士の指導等、計 148 回実施。
			安全に対する重要性を認識し行動する態度を身につけさせる。	実習や実験によるけが等の災害を出さない	A	今年度、実習等による大きなけがなし。
			ものづくりに対する指導力向上のため、主に若手教員を対象とした校内研修会や、地域企業との連携による技能講習会を行う。	技能講習会や地域企業連携の数 8 回程度	A	校内での技能講習会や、企業への研修等、計 8 回実施。

学校関係者評価（2月8日実施）	
<p>&lt;生徒評価&gt;</p> <p>肯定的評価 68.9%(昨年度 64.9%)。</p> <p>工場見学や現場見学に行く機会については、昨年度コロナ禍の影響で実施できなかったインターンシップ等が再開されたこともあり、昨年度に比べて肯定的な意見が 22%向上した。また昨年度の課題であった、積極的に発表や議論をする授業の肯定的な意見も 8%向上した。引き続き、ICT を利用した授業や、現場見学を活用した授業等の推進が必要である。</p> <p>&lt;保護者評価&gt;</p> <p>肯定的評価 72.8%(昨年度 77.3%)。</p> <p>「キャリア教育やインターンシップ等、生徒が将来社会人として生きていくための取り組みが、十分行われている。」については、昨年度より肯定的評価が 8.7%向上した。</p> <p>ただし、「学校開放週間やその他の機会を利用し、学校の内容を知ってもらおう努力をしている。」「地域との連携が充実している。」については「どちらともいえない」が 40～50%程度であるので、外部への発信や地域との連携をさらに充実させる必要がある。</p> <p>&lt;学校運営協議会委員評価&gt;</p> <p>肯定的評価 89.3%(昨年度 95.0%)。</p> <p>生徒や学校の PR をどんどん行ってほしいという意見、小学生のものづくり教室を続けてほしいという意見、外部の人材を活用してほしいという意見、図書館活動を大事にしてほしいという意見などをいただいた。</p>	